

報告 — 2008年新年会

全国から70人が集い賑やかに

2008年1月26日、本年最初のイベント「新年会」が開催され、今年も大勢の方が集い、久しぶりの再会を楽しみました。

冬晴れのこの日、東京・一ツ橋の水会館にて12時30分より恒例の新年会が開催されました。東京近辺からの参加者のもとより、今回は遠く九州、関西、中部、東北の各地から、総勢70名の方にお集まりいただきました。

亀岡園子さんの司会進行のもと、加賀乙彦会長、遠藤順子夫人のご挨拶があり、黒井千次顧問の乾杯の音頭へと続きました。

来年80歳をむかえられる加賀先生は、ご自身が胃の検査を控えていらつしやるとのこと、遠藤先生が東大病院の患者向け資料を書き換えられたことや、遠藤先生の一言で入院患者の夕食の時間が変更されたことなど「あたたかな医療」について話されました。

順子夫人は、昨年教会のそばで転倒され救急車に乗ったといういきつとすような告白をされましたが、救急車の中で「慶應病院だけは（遠藤先生が亡くなられた病院なので）、ダメです！」とお願したというエピソードをとてもお元気そうに話してくださいました。黒井千次先生も、病気をする度に遠

藤先生がいつもあらゆる病状に対応した病院と医師を紹介してくれた、とお話になりました。

病気や病院の話が多かったのですが、加賀先生、順子夫人、黒井先生もとても若々しくお元気そうで、これからも周作クラブを支えていってくださいるように感じました。

今回二度目になる如水会館の新年会は、広々とした会場でゆつたりと美味しいお食事をいただきながら、会員同士の話にも花が咲いたようでした。その後は、会員の後藤徹哉さんによ



「慶應病院だけはダメ！」ユーモラスに順子夫人。
撮影・田村百合子さん

るギターの弾き語りが披露されました。後藤さんの歌声にあわせて会場全体がひとつになり、とても美しいコーラスとなりました。四季をテーマにした曲、そして最後の曲は「千の風になつて」。周作クラブ会員の皆様が新年会でこの曲を歌っている時、もしかしたら遠藤先生が会場のすぐ外を風になつて吹いていらつしやると感じた方も多かったようです。

そして恒例のビンゴ大会。なるべく多くの人に賞品が当たるようにとの主催者のご好意で二回ビンゴが行われました。一回目は通常通りのビンゴで、出た数字を順に穴を開けていく方式。二回目は、逆に最後まで出なかった数字の方が一位になるというユニークなもの。一番にリーチになった方がなかなかビンゴにならなかつたり、それまでまったく当たらなかつた方に突然ビンゴが出たりと、大盛況でした。また、会員から賞品のご寄付もあつて、最後にはじゃんけん大会も行われ、例年にも増して多くの方が賞品を手にすることができました。

一等の賞品は、電子辞書とディスプレイノート招待券、二等以下の賞品も癒しをテーマに健康グッズや遠藤先生のご著書、文学館のグッズなど盛りだくさんでした。一等の賞品を手にしたのは、千葉県船橋市から来られた石井令子さん（なんと去年も三等を手



アルファベットの札を立てたテーブル。席はすべて抽選で。
撮影・田村百合子さん

されたそうです！）と、東京都品川区の岩城玲子さん（会員になったばかり、初のご参加）でした。順子夫人も二等の賞品が当たり、「何だか、今年は当たり年になりそうです」とお話されていました。

楽しい時間もあつという間に過ぎ、最後には宮辺尚氏より現在の周作クラブの会員数と去年から新規入会者が増えている旨が報告されました。

新年会は、周作クラブの会員が集まる数少ない機会ですが、久しぶりに会員や初顔の方々も、とても楽しく充実した時間を過ごしておられるようでした。来年の新年会には、今回出席された方ももちろん、今年はお席できなかった方も、ぜひご参加ください。（記・黒澤政子）